

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成28年8月10日
【四半期会計期間】	第138期第1四半期(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
【会社名】	大日本木材防腐株式会社
【英訳名】	Dainihon Wood-Preserving Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 鈴木 龍一郎
【本店の所在の場所】	名古屋市港区千鳥一丁目3番17号
【電話番号】	名古屋 (052) 661局 1502番
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員管理本部長 堤 時 英
【最寄りの連絡場所】	名古屋市港区千鳥一丁目3番17号
【電話番号】	名古屋 (052) 661局 1502番
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員管理本部長 堤 時 英
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第137期 第1四半期 連結累計期間	第138期 第1四半期 連結累計期間	第137期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (千円)	5,780,170	6,071,997	24,372,442
経常利益 (千円)	94,543	163,068	567,177
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	53,169	106,492	234,998
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	100,531	62,202	164,956
純資産額 (千円)	4,592,842	4,688,477	4,657,267
総資産額 (千円)	15,928,178	15,583,634	15,692,455
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	13.65	27.34	60.32
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	28.8	30.1	29.7

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢に改善がみられるなど緩やかな回復基調が続いているものの、新興国経済の減速および英国のEU離脱決定による円高・株安の進行、消費増税の再延期決定など、先行き不透明な状況が続きました。当社グループ事業との関連が深い国内の住宅市場におきましては、住宅取得に対する税制優遇政策の継続や日本銀行のマイナス金利政策による住宅ローン金利の低下などにより、新設住宅着工戸数は24万7千戸（前年同期比4.9%増）と持ち直しの動きがみられ、木材事業に特に関係が深い持家や戸建分譲住宅につきましても緩やかながら回復の兆しがみられました。

このような状況のなか、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は60億7千1百万円（前年同期比5.0%増）、営業利益は1億3千9百万円（同83.3%増）、経常利益は1億6千3百万円（同72.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億6百万円（同100.3%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

木材事業では、主に木造戸建住宅の構造材・羽柄材を扱っております。持家や戸建分譲住宅市場の需要が対前期比で伸びたことから、現地挽輸入木材製品や邸別ピッキング部材等の売り上げが増加したことに加え、円高による資材価格の下落等により、売上原価率が改善しました。この結果、売上高は47億1千6百万円（前年同期比5.9%増）、セグメント利益は4千4百万円（前年同期はセグメント損失6百万円）となりました。

物流事業では、主に住宅関連の運送事業および荷役事業を行っており、戸建住宅市場が緩やかに回復するなか、積極的な営業活動および運送・荷役業務の生産性の向上に取り組んでまいりました。この結果、売上高は11億3千1百万円（前年同期比2.0%増）、セグメント利益は5千5百万円（同5.3%増）となりました。

不動産事業では、賃貸用倉庫や賃貸用マンション等の賃貸業のほか、太陽光発電売電事業を行っております。売上高は7千2百万円、セグメント利益は2千4百万円といずれも前年同期比横ばいとなりました。

木材害虫防除関連事業では、主に木材害虫類の防除用薬剤を扱っております。売上高は1億5千1百万円（前年同期比5.1%増）となりましたが、セグメント利益は1千5百万円（同5.6%減）となりました。

(2) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は6,782千円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,560,000
計	16,560,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,140,000	4,140,000	名古屋証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株であります。
計	4,140,000	4,140,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年6月30日	—	4,140	—	207,000	—	4,299

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 15,000 (相互保有株式) 普通株式 778,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,312,000	3,312	—
単元未満株式	普通株式 35,000	—	—
発行済株式総数	4,140,000	—	—
総株主の議決権	—	3,312	—

(注) 1. 単元未満株式数には、大日コンクリート工業株式会社保有の相互保有株式839株及び当社保有の自己保有株式827株が含まれております。

2. 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

② 【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 大日本木材防腐株式会社	名古屋市港区千鳥 一丁目3番17号	15,000	—	15,000	0.36
(相互保有株式) 大日コンクリート工業 株式会社	名古屋市中区錦 一丁目10番20号	778,000	—	778,000	18.79
計	—	793,000	—	793,000	19.15

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、栄監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年 3 月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成28年 6 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,985,325	1,821,148
受取手形及び売掛金	3,889,714	3,858,282
商品及び製品	1,279,192	1,389,444
仕掛品	57,613	59,725
原材料及び貯蔵品	473,087	424,663
未成工事支出金	92,626	152,363
その他	362,649	428,638
貸倒引当金	△5,700	△6,400
流動資産合計	8,134,509	8,127,866
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,505,426	2,472,622
土地	2,253,030	2,253,030
その他（純額）	618,164	601,303
有形固定資産合計	5,376,621	5,326,955
無形固定資産		
のれん	85,086	77,351
その他	16,346	15,094
無形固定資産合計	101,432	92,445
投資その他の資産		
投資有価証券	1,872,650	1,836,570
その他	231,941	224,496
貸倒引当金	△24,700	△24,700
投資その他の資産合計	2,079,891	2,036,366
固定資産合計	7,557,946	7,455,768
資産合計	15,692,455	15,583,634

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年 3 月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成28年 6 月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,560,475	3,493,909
電子記録債務	1,874,626	1,934,783
短期借入金	2,258,552	2,217,567
未払法人税等	148,867	53,858
賞与引当金	174,785	84,913
役員賞与引当金	6,000	-
環境対策引当金	183,800	183,800
その他	388,557	654,830
流動負債合計	8,595,664	8,623,662
固定負債		
長期借入金	1,560,437	1,428,338
役員退職慰労引当金	195,205	189,331
退職給付に係る負債	180,994	177,159
資産除去債務	12,150	11,973
その他	490,736	464,692
固定負債合計	2,439,523	2,271,494
負債合計	11,035,188	10,895,156
純資産の部		
株主資本		
資本金	207,000	207,000
資本剰余金	4,544	4,544
利益剰余金	4,379,860	4,455,421
自己株式	△100,222	△100,283
株主資本合計	4,491,182	4,566,682
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	172,737	136,666
繰延ヘッジ損益	△6,653	△14,871
その他の包括利益累計額合計	166,084	121,794
純資産合計	4,657,267	4,688,477
負債純資産合計	15,692,455	15,583,634

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
売上高	5,780,170	6,071,997
売上原価	5,121,346	5,363,522
売上総利益	658,823	708,475
販売費及び一般管理費	582,563	568,699
営業利益	76,260	139,776
営業外収益		
受取利息	7	10
受取配当金	5,485	5,689
為替差益	113	356
持分法による投資利益	14,277	20,893
雑収入	7,117	3,474
営業外収益合計	27,001	30,424
営業外費用		
支払利息	6,403	5,051
手形売却損	2,316	2,078
雑損失	-	1
営業外費用合計	8,719	7,131
経常利益	94,543	163,068
特別利益		
固定資産売却益	1,248	4,675
特別利益合計	1,248	4,675
特別損失		
固定資産除却損	2,661	5,681
特別損失合計	2,661	5,681
税金等調整前四半期純利益	93,130	162,062
法人税等	39,961	55,570
四半期純利益	53,169	106,492
親会社株主に帰属する四半期純利益	53,169	106,492

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純利益	53,169	106,492
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	34,447	△31,925
繰延ヘッジ損益	4,563	△8,218
持分法適用会社に対する持分相当額	8,350	△4,146
その他の包括利益合計	47,362	△44,289
四半期包括利益	100,531	62,202
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	100,531	62,202

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	
(会計方針の変更)	
法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。	
これによる当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。	

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
受取手形割引高	669,642千円	692,832千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
減価償却費	85,610千円	80,719千円
のれんの償却額	19,077千円	7,735千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	30,931	7.5	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	30,931	7.5	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	木材事業	物流事業	不動産事業	木材害虫防 除関連事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	4,453,566	1,109,808	72,143	144,651	5,780,170	—	5,780,170
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	23,824	—	—	23,824	△23,824	—
計	4,453,566	1,133,632	72,143	144,651	5,803,994	△23,824	5,780,170
セグメント利益 又は損失(△)	△6,323	52,851	24,316	16,122	86,966	△10,706	76,260

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△10,706千円のうち、△11,342千円はのれん償却額であり、636千円はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	木材事業	物流事業	不動産事業	木材害虫防 除関連事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	4,716,256	1,131,664	72,111	151,964	6,071,997	—	6,071,997
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	18,663	—	—	18,663	△18,663	—
計	4,716,256	1,150,328	72,111	151,964	6,090,661	△18,663	6,071,997
セグメント利益	44,089	55,675	24,168	15,215	139,149	627	139,776

(注) 1. セグメント利益の調整額627千円はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	13円65銭	27円34銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	53,169	106,492
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	53,169	106,492
普通株式の期中平均株式数(株)	3,895,740	3,895,710

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年8月10日

大日本木材防腐株式会社
取締役会 御中

栄監査法人

代表社員 業務執行社員	公認会計士	澤	田	博	印
代表社員 業務執行社員	公認会計士	林		浩	史
業務執行社員	公認会計士	市	原	耕	平

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大日本木材防腐株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大日本木材防腐株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。